

事務局便り

第99号（令和4年10月）

【英霊に敬意を！日本に誇りを！】

近畿偕行会

巻頭言

いよいよ秋本番、猛暑・残暑を乗り越えて、爽やかな安らげる季節となりました。

今期は武漢ウィルス禍を乗り越えて本会の2大慰霊行事を実施します。多くの会員皆様の参加をお待ちしております。

また、この時期、自衛隊の各駐屯地・基地等で創立記念行事等が実施されます。

元気を出して最寄りの駐屯地等をご訪問して頂き、現役隊員達の激励をお願いします。

（加賀本）

案内事項

第14回特攻勇士慰霊祭

本年は、第14回慰霊祭を迎える事になります。会員諸氏におかれましては一人でも多く参加頂き、共に大阪府出身528柱の勇士の英霊に心からなる感謝の誠を捧げたいと念じております。

下記の要領で慰霊祭を行いますので、お誘いあわせの上ご参加をお願い申し上げます。

記

日時：令和4年10月23（日）11時～14時（受付開始10時30分）

式典（碑前）：11時～12時

陸上自衛隊音楽隊による慰霊演奏：

12時～12時30分

直会（会食）：12時40分～14時

場所：大阪護国神社

（地下鉄四ツ橋線住之江公園1番出口直ぐ）

参加費：慰霊祭に参加される方は、志納金（式典協賛金）として1口1,000円、2口以上のご寄付をお願い致します。

なお、参加頂けない方も英霊に対する感謝の気持ちを御芳志として御寄付を頂ければ幸甚の極みです。よろしくお願い申し上げます。

直会（会食）に参加を希望される方は、志納金の他に別途お一人4,000円が必要です。

同封の特攻勇士顕彰会（00910-6-232382）用「払込取扱票」での払込、又は事務局まで電話にて10月13日（木）までにお申込下さい。

担当 熊谷・加賀本

令和4度パール判事顕彰献花祭

本年は24周年目の献花祭を迎えます。パール博士の偉業を偲び、東京裁判史観の払拭とインドとの更なる友好を目的に顕彰行事を下記の要領で行いますので、お誘いあわせの上ご参加をお願い申し上げます。

なお、献花祭に先だって神戸インド総領事と共に、大東亜戦争での日本軍兵士、日本軍と共に戦ったインド国民軍の兵士、その後の独立戦争でのインド軍兵士達、散華された方々の慰霊行事を執り行います

記

日時：令和4年11月26日（土）11時～12時

場所：京都霊山護国神社 Tel：075-561-7124

時程

11:00～11:30 大東亜戦争戦没者、昭和殉難者法務死者、インド国民軍・独立戦争戦死者追悼式（本殿）

11:40～12:00 パール博士顕彰献花式（顕彰碑前）

12:10～14:00 直会（懇親会）

同封の近畿偕行総会（00930-7-39171）用「振込取扱票」での払込、又は事務局まで電話にて

11月22日（火）までに申し込み下さい。

直会（懇親会）参加を希望される方は5000円参加されない方の参加費は2000円です。

参加頂けない方もご芳志として寄付を頂ければ幸甚の極みです。よろしくお願いします。

担当 加賀本・熊谷

10・11月度歴史研究会

令和4年10月・11月の歴史研究会は、以下で予定します。

何方でも参加できます。志のある方をお誘い下さい。

また、ライフワーク等の研究発表の場としても大いにご活用下さい。

場所は、神戸大学凌霜クラブ(06-6345-1150)大阪駅前第1ビル11階南側です。

講義・ディスカッション後、軽食懇親会をします。多くの方のご参加をお待ちしております。参加を希望される方は、食事準備の都合もありますので、**4日前までに**加賀本までご連絡ください。必要費用は、軽食会食費代で3000円程度です。

担当 加賀本

Tel : 072-785-8954 携帯 090-1241-8877

Mail : akio@room.ocn.ne.jp

10月度

日時：10月27日(木) 18～20時

内容：『ウクライナ戦争と台湾侵攻』です。

田川顧問に担当して頂きます。

Taiwan Voice Report Vol.13 2022年4月号

著者は林 健良氏・藤井巖喜氏です。

NATO などから救いの手がなかなか届かず、ロシアの侵略に全土を蹂躪されかけたウクライナの悲劇的状況に、台湾の人々は言い知れない恐怖を感じた。「台湾海峡があってよかった」。そんな感想を漏らす台湾の知人もいた。国境の北、東、南から地上軍の侵入を招いたウクライナに比べて、台湾と中国との間には幅130キロの天然の盾・台湾海峡があるので、中国の侵攻も容易ではないでしょうが、可能性は否定できません。我が国にとっても他人ごとではなく将に有事です。

大いにディスカッションしましょう。

11月度

日時：11月24日(木) 18～20時

内容：『プーチンと習近平 独裁者のサイバー戦争』です。

田川顧問に担当して頂きます。

著者は、山田敏弘氏（国際ジャーナリスト）

2022年4月30日 文藝春秋刊です。

今年2月24日、ロシアのプーチン大統領のテレビ演説の後、ロシア軍がウクライナに侵攻した。この戦争で重要性をましているのは、サイバー空間である。

近年インターネット技術の進歩により、戦争の在り方が大きく変わった。

「ハイブリッド戦争」などと呼称されているように、IT 技術、AI 技術を複合的に組み合わせて、軍事作戦を遂行することとは、珍しいことではなくなった。

著者はかねて、こうした「サイバー戦争」に注目し取材を重ねてきた。本書で紹介するウクライナ戦争では、サイバー戦争、情報戦争の真価がこれまで以上に注目を集めている。

我が国は対応可能なのか？

大いにディスカッションしましょう。

令和4年度会費納入のお願い

会費は、近畿偕行会を維持し、活動を円滑かつ効果的に運営するための軍資金です。

本年度会費未納の方は、当会の財政的窮乏をご明察の上、**96号に同封**しておりました「近畿偕行会(00900-6-29358)用「払込取扱票」にて、メール連絡会員の方は、**近畿偕行会(00900-6-29358)**宛に、振込みの程、宜しくお願い致します。

担当 加賀本

会員増勢のお願い

ご遺族・戦友が亡くなられて行く中、戦没英霊慰霊の灯を消してはなりません。国のため命を捧げた英霊に対する感謝を忘れ、祖国への誇りを持って

ない国民、その国は亡びると言います。

本会も令和3年度末で、会員数は120名を割り込みました。

「英霊に敬意を！日本に誇りを！」をモットーとする崇高な使命を有する近畿偕行会を潰してはなりません。何としても盛り上げねばなりません。解決策は、一に、会員の増勢を図る他ありません。◎帝国陸軍関係会員の皆様には、ご子弟、お孫さんを家族会員に！！

◎自衛隊OB会員の皆様には、同期生・後輩を正会員に！！子弟を家族会員に！！

◎本会の趣旨に共鳴する、身近にいる、志ある草莽の士を発掘し、賛助会員に！！

ご協力を衷心よりお願い致します。情報を頂ければ、事務局で対応いたします。

担当 加賀本

報告事項

今期は特にありません

担当 加賀本

会外行事参加報告・紹介案内

参加報告

8月15日英霊感謝祭他関連行事

本年は、各行事とも武漢ウィルス禍以前の正規の状態で開催され、ご英霊への感謝、鎮魂を十二分に出来たものと思料します。

担当 加賀本

○英霊感謝祭

英霊感謝祭は、8月15日（日）12時から大阪護国神社に於いて、武漢ウィルス禍第7波の猛威下にも関わらず、また連日の酷暑の中遺族を初め多くの一般参拝者等100名を超す参列者があり、特に若い人・子供連れも見られ、幼き手を合わせ一心に拝礼する微笑ましい情景も見られ「日本国は大丈夫！！」との感を深くしました。

当会からは、盛田・小山理事・熊谷が参加し、熊谷事務局長が会長代理で玉串奉奠を実施しました。

○終戦77年 戦没者追悼祈念講演会

午後2時～3時50分からオスカー・ホールに於いて 英霊にこたえる会大阪府本部・日本会議大阪共催の講演会が実施されました。

講師は葛城 奈海女史（防人と歩む会会長・やおよろづの森代表）で、演題は「戦うことは『悪』ですか〜いま私たちがなすべきこと」でした。

尖閣問題・拉致問題等自らの体験に基づき、愛国精神からの憂国の心情を力強く吐露され多くの聴衆に感銘を与えられました。

立ち返る先は、建国の理念「八紘為宇」、即ち和魂・荒魂の両面を備えた大和魂の発揚であると結論された。

○真田山陸軍墓地万灯会

公益財団法人真田山陸軍墓地維持会主催の万灯会が4年振りに真田山陸軍墓地で実施されました。

100人を超える心ある人たちが参加し

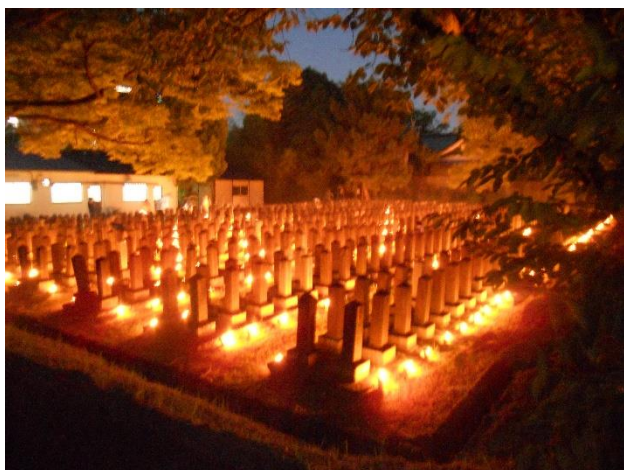
午後6時～ローソク立て・清掃作業を実施、午後7時にローソクに一斉点灯、幻想的な世界を出現させ、戦没英霊に感謝と慰霊の誠を捧げました。

ご英霊もご満足された事と拝察しました。

本会から、加賀本・熊谷・井上美和女史が参加しました。



静寂の中に眠るご英霊



点灯後の幻想的な風情

陸上自衛隊伊丹駐屯地納涼夏祭り

残念ながら荒天のため中止となりました。

担当 加賀本

陸上自衛隊千僧駐屯地納涼行事

8月5日（金）千僧駐屯地に於いて納涼盆踊りが3年振りに実施されました。前日の伊丹駐屯地の盆踊りが中止となったこともあり、待ち兼ねた9000名を超える多くの市民が詰めかけました。武漢ウィルス禍のため、楽しみな部隊の出店等はありませんでしたが、皆さん、夏の一夜を楽しんでいました。



楽しい夏の一夜

担当 加賀本

樋口季一郎将軍顕彰祭

将軍の命日に当たる8月20日（土）大阪護国神社に於いて樋口季一郎将軍顕彰祭が催行され、10時から顕彰祭が実施されました。



顕彰祭後の記念撮影

その後記念講演、講師は樋口隆一氏（将軍御令孫：音楽学者・指揮者、明治学院大学名誉教授）で、演題は「樋口季一郎の北海道防衛とウクライナ情勢」

将軍の裏話を含めたご活躍状況と、今後の日本のあり方について熱意溢れるご講演を頂きました。その後の懇親会は、和気藹々有意義なものとなりました。本会から会長以下5名が参加しました。



御令孫樋口隆一氏の講演状況

担当 加賀本

紹介案内

樋口季一郎将軍銅像除幕式

将軍の誕生日に当たる10月11日（火）11時から故郷である淡路島「伊弉諾神社」に於いて樋口季一郎将軍の銅像除幕式が執り行われます。

心ある方は是非ご参加ください。

当会から会長と事務局長が参加の予定です。

担当 加賀本

大阪護国神社秋季例大祭

大阪護国神社に於いて、10月20日（木）午前10時から秋季例大祭が催行されます。

参加をご検討下さい。

担当 加賀本

真田山陸軍墓地秋季慰霊祭

10月22日（土）1030から真田山陸軍墓地に於いて秋季慰霊祭が行われます。その後、講演会・昼食会が実施されます。

詳しくは、真田山陸軍墓地維持会（TEL：06-6211-5971）にお問い合わせください。



真田山陸軍墓地要図

担当 加賀本

第28回全国戦没学徒追悼祭

本年も以下の通り標記追悼祭が開催されます。

往復送迎貸し切りバス、総会及び懇親会費を含み3,000円です。是非参加ください。

日時：10月21日（金）11時齋行

齋場：戦没学徒記念「若人の広場」

総会：ホテルニューアワジ・プラザ淡路島

参加申し込み：加賀本宛（090-1241-8877

メール akio@room.ocn.ne.jp）に、10月7日（金）

（送迎バス利用有無含む）までに連絡ください。

自家用車利用の場合は、総会会場の駐車場に停めて、送迎シャトルバスで齋場まで移動ください。

往復送迎貸し切りバスは湊川神社前集合、8時半出発です。

会費3,000円は加賀本が立て替え申し込みしておきますので、後日加賀本にお支払い下さい。

担当 加賀本

和歌山偕行会便り

「戦争勃発以来、初の電話会談?!」 ブリンケン米國務長官は29日、ロシアのラブロフ外相と電話会談し、ロシアがウクライナで占領地の編入を強行する動きなどについて「世界は認めない。重い代償を負わせる」と警告したようです。国務省での記者会見でそう語りました。

ブリンケン氏は「率直で直接的に話し合った」と説明し、その上で「世界中がロシアの戦争目的の拡大を懸念している。プーチン大統領はウクライナ領を最大限手に入れ、主権国家としての独立を奪おうとしている」と非難したことを明らかにしました。一方、ロシア外務省によると、ラブロフ氏は米国と北大西洋条約機構（NATO）がウクライナへ供与した兵器が戦闘を長期化させ、市民の犠牲者を増やしていると批判し、さらに、ウクライナでの「解放地域」で平和な生活に戻るための体系的な作業が行われていると主張した模様です。それぞれの国の叡智が、夫々に言い分を主張したに過ぎず、どちらもどっちだなどの印象があります。戦争勃発後、丸五ヶ月を経過したこの時期に、この会談の意味するところは何なのでしょう。

日本では、大半の国民はウクライナの主権を犯したプーチンが悪いと思っていますが、一部には、

軍事的・民生的にロシアを追い詰めた結果のプーチンの決断だとの見方があります。これは、ウクライナの現状を容認した将来的な安全保障上のリスクよりは、現在払っている犠牲、詰まりウクライナ戦争を仕掛けたリスクの方がましだとの考え方に依ります。どちらから会談を持ちかけたか明らかではありませんが、ロシアからすれば「主敵は米国だとの認識」があるからこそ応じたのでしょう。

中東でのカラー革命は、CIA が画策したことが略明らかになっており、ウクライナでの CIA やネオコンの行動を、プーチンが警戒していたことは、略事実です。WWII 後、米国の名宰相アイクが、米国にとり将来的に大きな危険因子は、「産軍複合体」であると警鐘を鳴らしています。カラー革命やウクライナ戦争に通底しているのは、明らかに戦争ビジネスであり、ロシアの原油・天然ガス・レアメタル等の資源争奪であると、私は、推測しています。

(前和歌山偕行会会長 奥野耕三)

編集後記

武漢ウィルス禍も未だ収まらず、安倍元総理の横死により政局も混乱含み！日本の将来はどうなるのでしょうか？

軽薄な世論や専門家と称する一派のいかがわしい論に惑わされない、「信念に基づいた毅然たる姿勢」を貫く、安倍元総理に代わる現有事の世にふさわしい人士の出現が待たれます。

とにかく現岸田総理の第一にやるべき事は、早急に憲法改正を図り、英霊が願っている本来の良き日本を蘇らせる事でしょう。

(加賀本)

【余白雑感】

『終戦記念日を中心とした報道に思う』

(加賀本記)

朝日新聞は読まないから、NHK等のテレビ報道を見ての感想が主となります。

8月に入ると連日、戦争の悲惨さ、残酷さのみを強調する報道がなされ、「戦争は何がなんでもしてはいけない！」との結論となる。

戦争には相手がある事で、肝心な事がスッポリ抜け落ちている様に思われます。

それは「二度と悲惨な戦争に巻き込まれない様にするにはどうするか！」という論点です。

我が国は「専守防衛」という戦略？ですから、次に我が国が巻き込まれる・生起する戦争は国土戦・本土決戦そのものとなります。

その悲惨さは大東亜戦争以上となり、想像するのも恐ろしいものでしょう。

「奴隷の生存」でも良いと云うならともかく、人間らしく、まともに生きたいと思うなら、ウクライナの状況でも明らかなように

- ① 戦いに巻き込まれないだけの力を持つこと
 - ② 信頼できる多くの友好・同盟国を作ること
 - ③ あくまでも戦い抜く強い意志を持つこと
- への議論を深める事が肝要ではないでしょうか。

近 畿 偕 行 会
会 長 加賀本 昭雄

編集責任者 熊谷 勉
〒651-1513 神戸市鹿の子台北町 3-1-4-201
Tel & Fax:078-952-3063

編集委員 加賀本 昭雄
〒664-0012 伊丹市緑ヶ丘 2-97
Tel:072-785-8954